

# 行動目標8. 患者・市民の医療参加 ～患者用DVD視聴による転倒・転落防止～

---

医療安全推進室

井上文江

医療安全推進室室長

福村文雄

リハビリテーション科部長

黒木洋美

ふれあいセンター

羽坂尚美

飯塚病院

看護部

2008. 11. 24



# 行動目標 8: 患者・市民の医療参加

## 行動目標 8: 患者・市民の医療参加

【目標】 患者・市民と医療者のパートナーシップを通じてケアの質・安全と相互信頼を向上させる

### 【活動】

1. 患者さんや地域の市民が参加・参画して医療の質・安全を向上させる活動を新規に実施する。
2. 活動の成功体験や教訓を共同行動HPから紹介する。

### ◆ 支援ツールを用意している参考モデル

- (a)「安全は名まえから」(患者と医療者の協同によるフルネーム確認)
- (b)「からだと病気を知るために」(院内患者図書室の設立)

その他どのような活動でも結構です。

参加病院からご提案いただくことで、さまざまな活動が広がることを期待しています。

# 取り組みの参考例

- 病院患者会の支援
- 病院ボランティアの受入れプログラム
- 患者用各種資料の開発や作成への患者参加
- 「マイカルテ」、「お薬手帳」の活用や普及促進
- 患者代理人(Patient Advocate) の任用
- 「Speak up」(米国)、「患者〇カ条」、「薬について質問しましょう」等の患者参加啓発活動
- 院内感染予防、肺塞栓予防、薬剤誤認防止、転倒転落防止などで患者さんにもできる協力方法を検討し、希望する患者さんに説明する

## ◆ 支援ツールを提供できる参考モデル

- a. “安全は名まえから”
- b. “からだと病気を知るために”

# 飯塚病院の概況

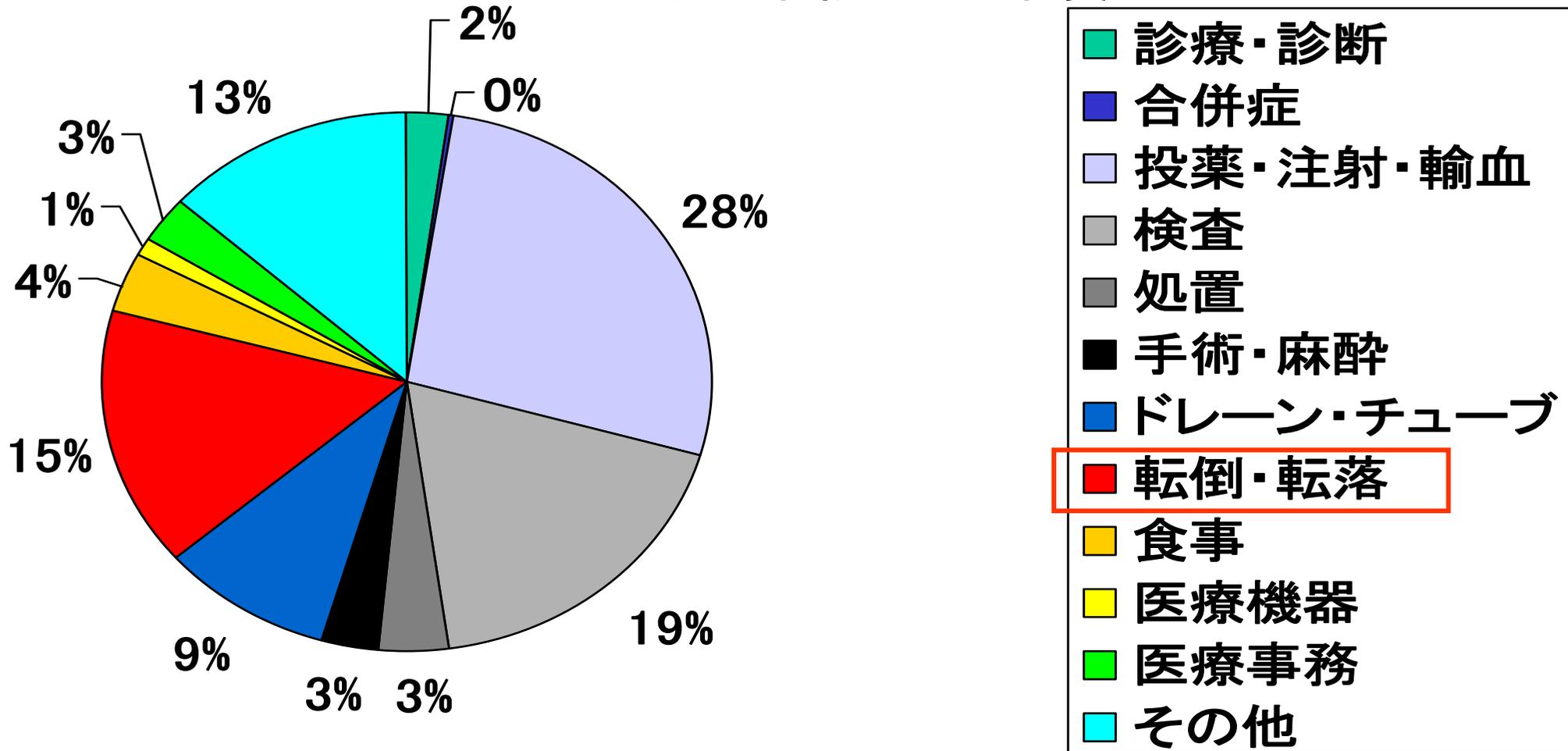
---

- 開設 大正7年8月
- 定床数 1,116 床(一般978床, 精神138床)
- 従業員数(H19年度) 1,652名  
医師 229名 看護師 847名 医療技術者 262名  
事務その他 314名
- 救命救急センター併設  
一日平均受診者数(H19年度) 135名 2次・3次は17名  
Ns.によるトリアージ体制
- 平均在院日数(H19年度) 15.0 日
- 一日入院患者数(H19年度) 850名 外来患者数 2,158名  
(数字は2007年度の実績)



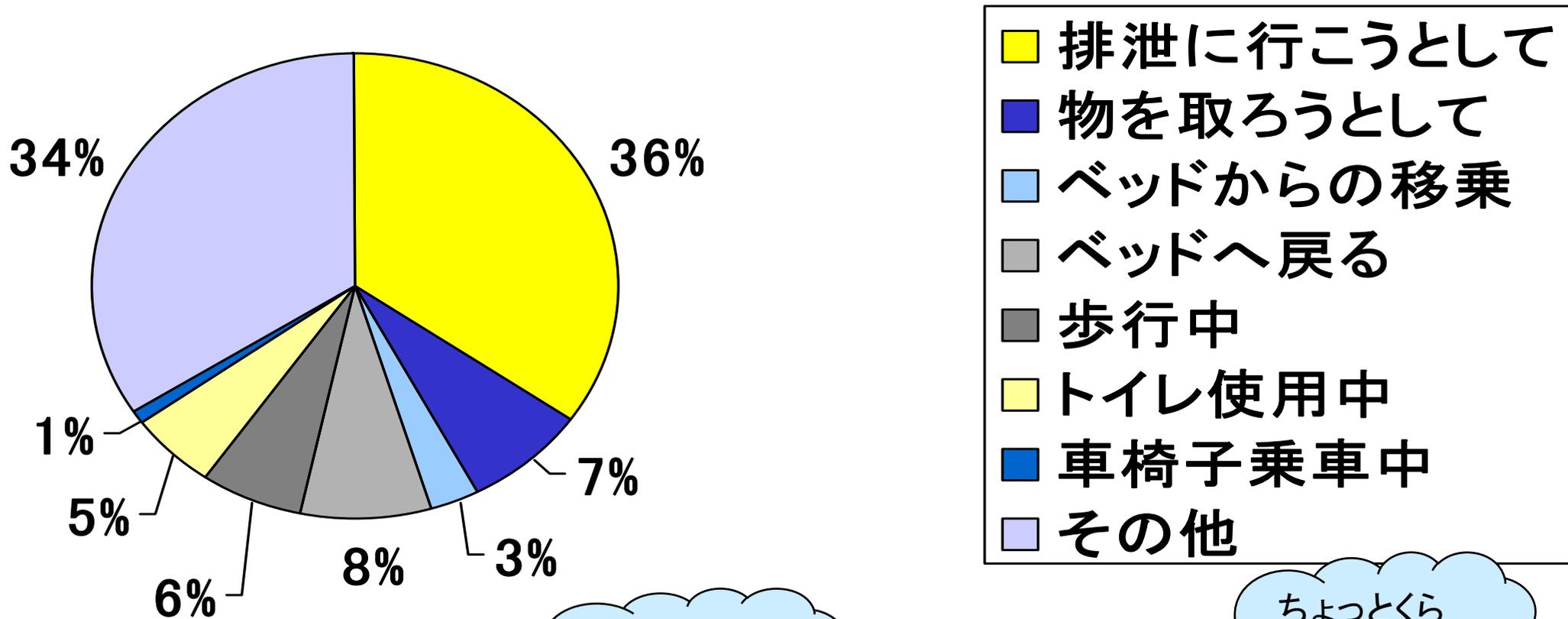
# 不具合(インシデント・アクシデント)報告の状況

飯塚病院2007年度 n=5305



転倒・転落は総報告の中で3番目に多く、解決すべき問題

## 転倒・転落のきっかけとなる患者行動



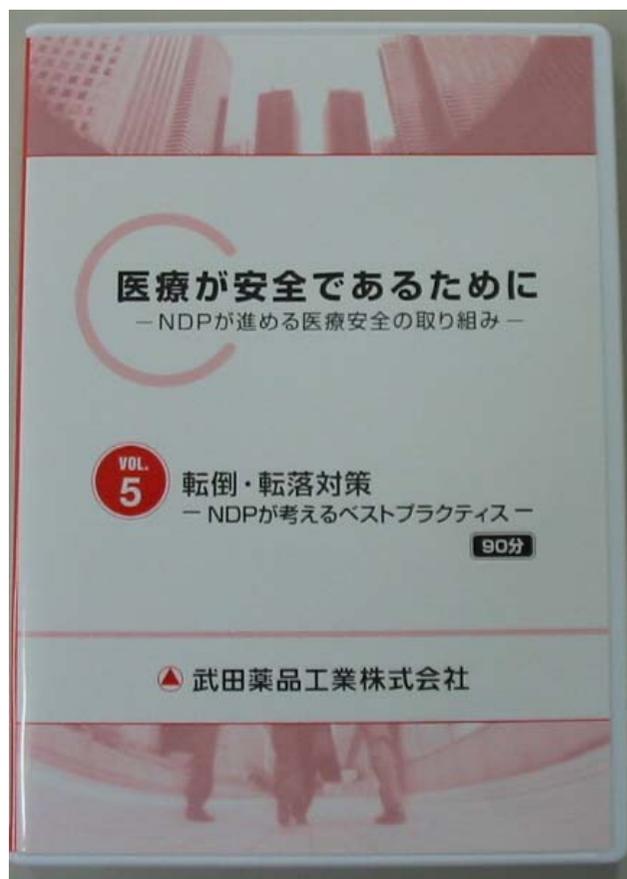
看護師さん  
忙しそう



ちよつとくら  
いだから大  
丈夫

# 転倒・転落防止のための患者教育ツール

転倒・転落分析結果を基にDVD制作  
(飯塚病院、早稲田大学、NDP※との共同制作)



1. 医療者編(62分)
2. 患者編 (15分)
  - ・01. 入院すると環境が変わります
  - ・02. 安全な動き方を覚えましょう
  - ・03. トレーニングしましょう
  - ・04. まとめ
3. ベッド上で誰でもできる運動療法(10分)

※NDP(National Demonstration Project on TQM for Health)

# 患者教育の効果を上げる仕掛け

転倒・転落の低減は2006年度から看護部目標の1つ

- 2006年度目標: 前年度発生件数の25%減  
転倒・転落アセスメントシートの使用率アップ
- 2007年度目標: 重傷事例の低減.  
入院案内コーナーで転倒・転落防止DVD上映.  
入院ベッドサイドのテレビで無料視聴

効果の兆し無し

- 2008年度目標: 入院患者さんがDVDを視聴する  
目標値 患者視聴率80 %



# 入院患者ベッドサイドTV配信システム運用の流れ

管理室(東病棟屋上)より配信

病室

ケーブル

確認用  
TV

タイマー  
電源装置

ビデオデッキ  
(2本のテープ  
をセット)

無料チャンネルへの放映  
放映時間 ; 9:00~21:00



転倒・転落防止放映時間  
9:00、11:03、13:06、  
15:09、17:12、19:15

管理業務 : ふれあいセンター広報室

○番組編集

○番組表作成

○テープ交換

# 患者さんへのテレビ放映の案内・評価

## 【展示物・・・ポスター、案内文】

- 病棟の案内表示ボードに貼る
- ベッドサイドに貼る、テレビに貼る
- 病棟のパンフレットに綴じ込む、手渡す

## 【患者さんへのおさそい】

- 担当Ns・・・①入院オリエンテーション時の説明
- ②放映時間になれば声をかける
- ③可能であれば一緒に視聴する
- リーダー・・・AM・PMのラウンド時の声かけ、一斉放送でアナウンス

## 【評価】

- 師長又はセーフティマネジャー・・・毎月、視聴率の調査・評価

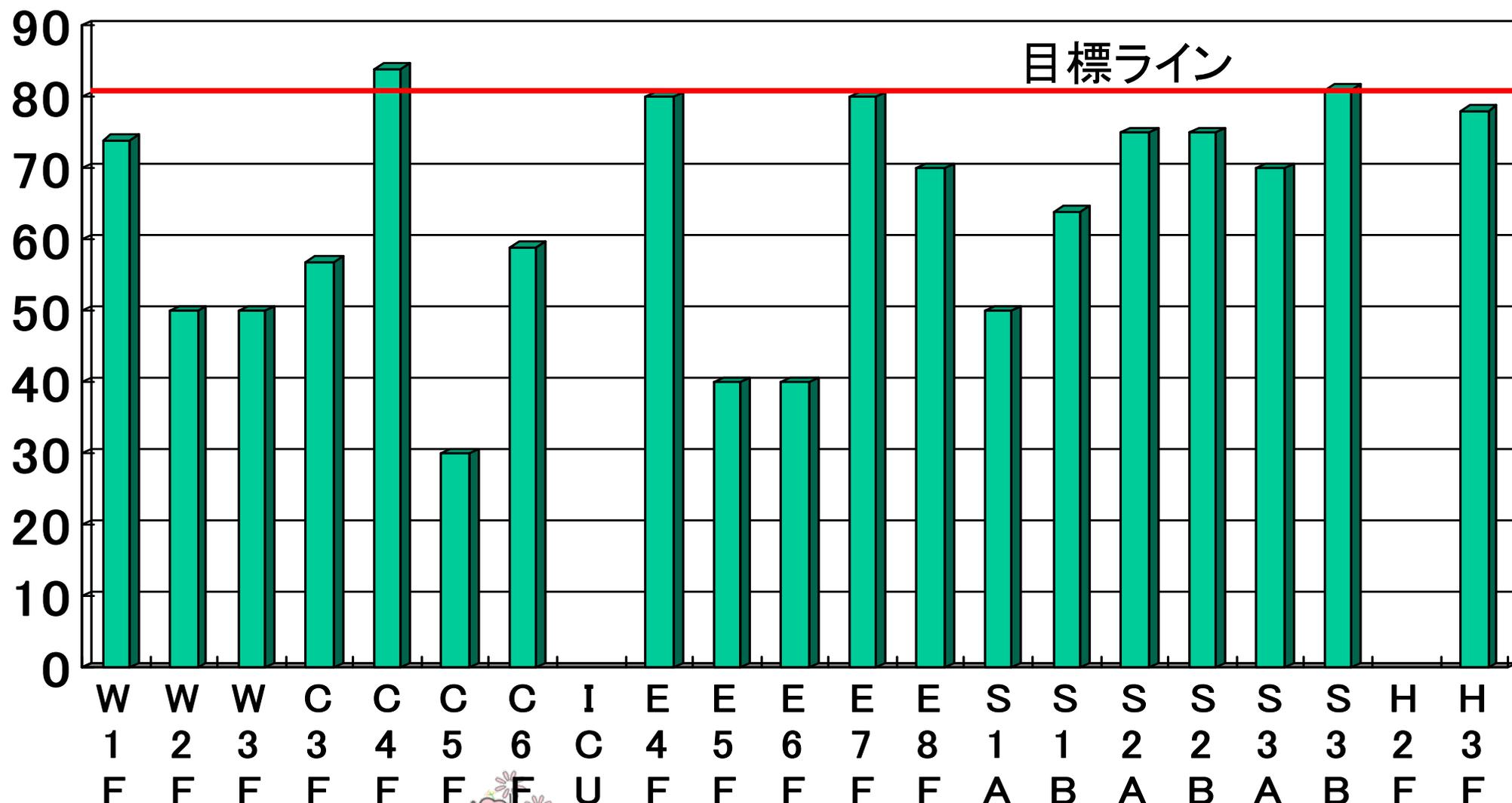
患者さん同志で声かけ合う姿も見かけるようになった



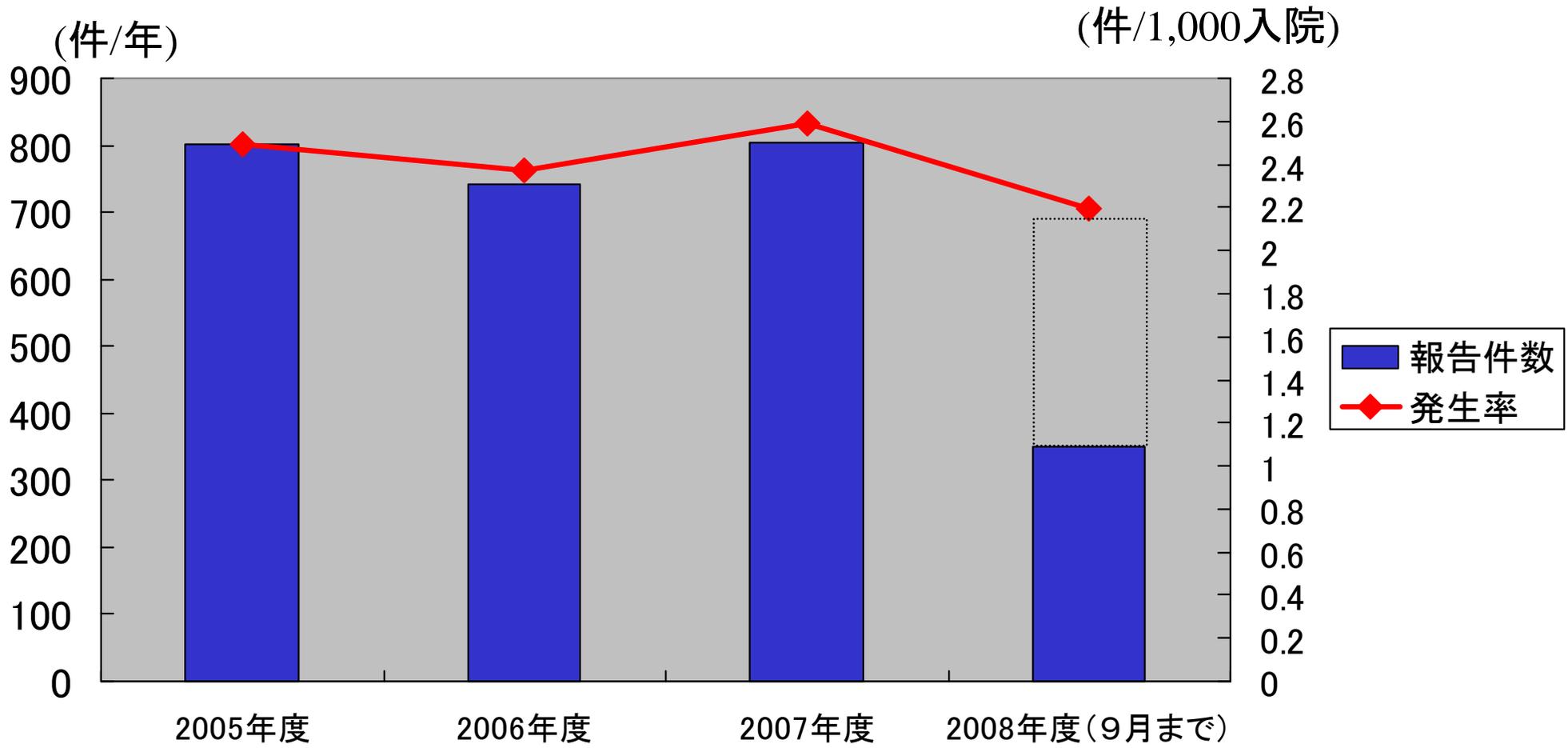


# 転倒・転落防止DVD患者視聴率

(%) 全病棟平均: 63.5% (2008年9月)

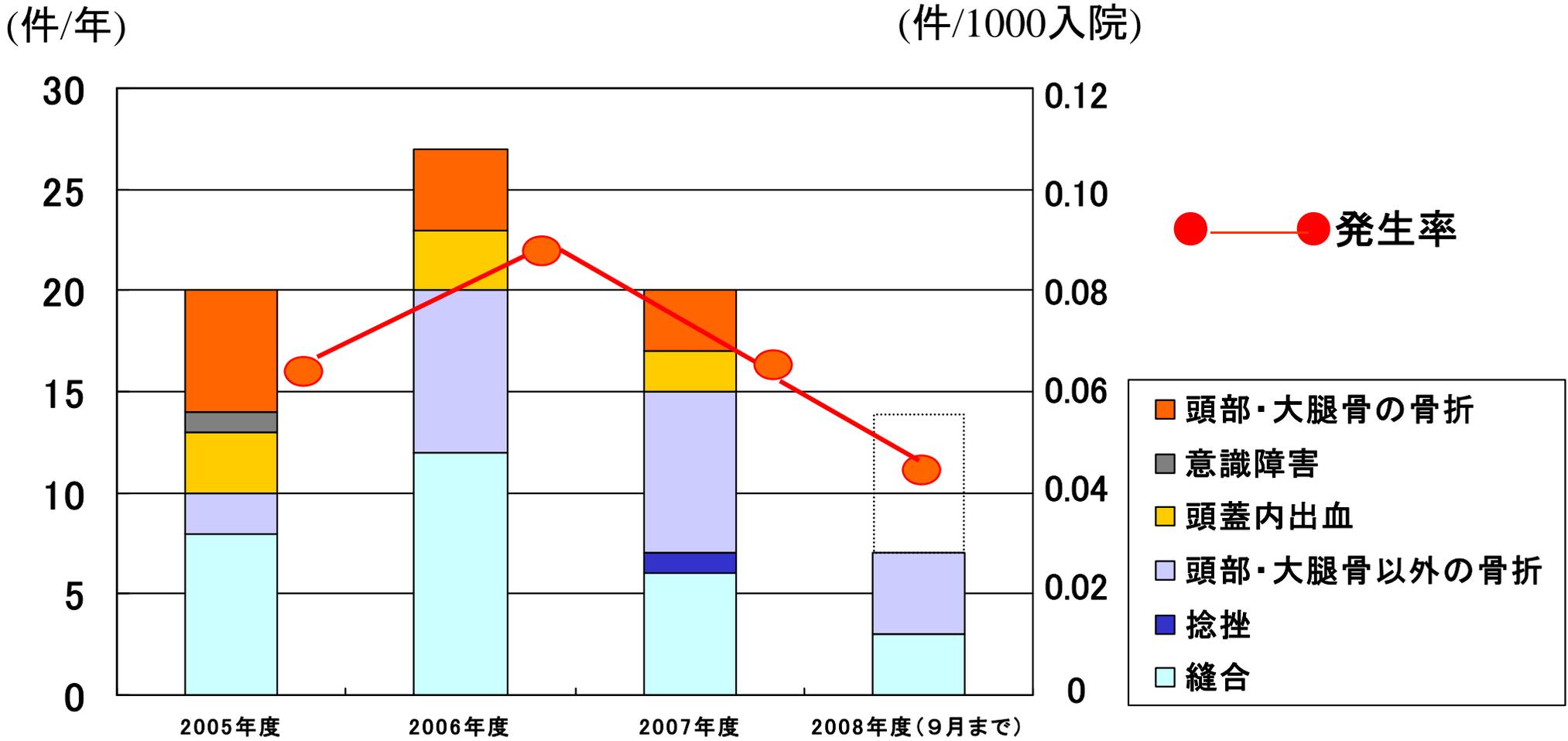


# 転倒・転落報告件数と発生率の推移



$$\text{発生率} = \frac{\text{報告件数}}{\text{入院延べ患者数}} \times 1,000$$

# 中等傷以上の転倒・転落件数と発生率の推移



半年であるが、大きな骨折や意識障害は発生していない

# まとめ

- 転倒・転落は他のインシデント・アクシデントと異なり患者側の要因が多いので、低減には患者参加が必須である
- 患者教育には様々な方途の創意工夫が必要であり、DVD視聴は転倒・転落防止に有効であった。
- 看護部目標に、より具体的な実施案と目標数値を採用することで転倒・転落件数の低減につなげることが出来た。

